



毎朝子どもに「車に気をつけてね！」と声をかけるお父さん、お母さんは多いと思いますが、実は多くの子どもは、交通事故よりも“家庭内の事故”でケガをしたり、亡くなっていることをご存知でしたか？

そして、家庭内の事故で今最も件数が多いのは「窒息」で、お餅やこんにゃくゼリーなどの食べ物を喉に詰まらせる事故が後を絶たず、普段は食べ慣れていても、ふとしたはずみで気管に入ってしまうこともあるそうです。



このような家庭内の事故が多いので、小さなお子さんのいるご家庭の場合は、親の目の届かないところでおやつを食べさせることは控えたいものです。

また、子どもは何を口にいれるか分かりません。

たとえば、子どもの手の届くところに“タバコ”など置いたりしていませんか？

いつの間にか背が伸びて、手が届くようになっていのに気がつかなかったということもよくある話です。

そして、家庭内で次に多い事故が「不慮の溺死」だそうです。



0～3歳くらいの子どもの溺死の多くは、家庭の浴槽で起きていますので、残り湯を洗濯に利用する場合は、お風呂場のドアに鍵をつけるなどの工夫も必要です。

また、侮れないのが「転倒」や「転落」です。

わずかな段差や、足元に転がるおもちゃなどが大きな事故につながることもありますので注意しましょう。

このように、「家の中に危険なところがないか？」子どもの目の高さでいつもチェックすることが大切です。